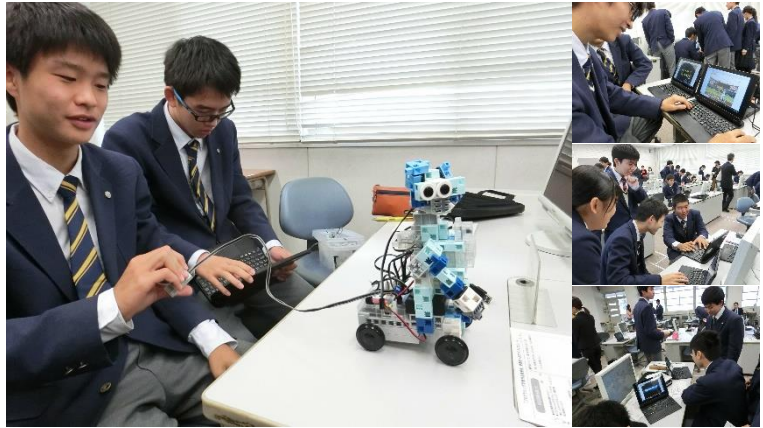




「プログラミング学習作品発表会」を開催しました

1月19日(火)に、理数科2年生による「プログラミング学習作品発表会」を実施しました。プログラミング言語「Scratch」を教材として、各班4人で協力して、音やセンサーの向きによって動きを制御するロボット、キーボードでキャラクターの動きを制御するゲーム等を、自分達で考えて製作しました。発表会では、どのような動きがどのようなプログラミングで制御されているかを説明しました。



プログラミング学習で指導いただいた、九州工業大学4年生 内田幹貴 先生からは、「プログラミングを完成させるまで大変だったと思う。班のみんなで、壁に当たりながら試行錯誤をしたと思うが、このような経験を今後の日常生活や実社会でも生かしてほしい。」とのお話がありました。

この学習では、PDCA サイクルによる課題発見・解決の経験を重ね、課題発見・解決に係わる資質・能力を身に付けることがねらいの1つです。この経験を今後の研究活動にも生かしてほしいと思います。

「共創セミナーに係る企業研修」を開催しました

1月26日(火)に、理数科1年生希望者13人を対象に、製品開発の実地研修を通して、製品開発や社会課題について課題発見・解決しようとする意識を啓発することを目的として、株式会社戸上電機製作所の協力のもと、「共創セミナーに係る企業研修」を実施しました。

研修では、高圧開閉器の生産現場やプロトタイプの製作現場、各種検査の様子等を見学しました。また、開発に携わる本校卒業生の方との交流を通して、研究開発のやりがいや自分の将来を考える機会となりました。



管理本部 人事グループ 研修センター センター長 米光敏彦 先生からは、「業種選択の一助になればとの考えで、内容を組みました。ものづくりに関心をもち、将来佐賀での地域貢献に尽力してもらいたいと思います。このような機会が継続的に行われることを願っています。」とのお話をいただきました。

参加者の感想

- 「特に印象に残ったのは、製品を開発する上で、いろいろなシミュレーションや品質点検をされていたことです。」
- 「考えをもとに組み立てては実験し、改善していくこのサイクルは、どんなものにも大切だと思った。」
- 「課題研究でも、正確な実験データを出すためには、妥協は許されないと思った。今回の研修を踏まえて、実験や研究に挑んでいきたいと思った。」
- 「今回、実際に見学して、開発や設計といった技術分野の進路選択を考えました。自分の将来をあまり狭めずに、いろいろな考えを持ちつつ、その中で一つに絞っていくようにしていきたいと感じました。」
- 「将来の自分の仕事を考えるにあたって、何が今問題となっているのか、世の中で何が今求められているのかを常に意識することが大切だと思った。」